

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
会計学 Accounting		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
簿記Ⅰ・Ⅱ、経営学Ⅰ・Ⅱ、ビジネス実務総論、商法				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
簿記Ⅱ、経営学Ⅱ、ビジネス実務総論Ⅱ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
山崎好一	非常勤講師室	授業内で指示する	授業中に指示します	
授業の概要				
企業会計原則の一般原則を取り上げた後、損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書の骨組み（フレーム）とその考え方を考察する。さらに、決算書全体の見方・読み方および簿記の役割と機能を取り上げる。				
授業の到達目標				
①簿記により作成される決算書の見方・読み方を理解することができるようにする。 ②会社の実態を会計的側面より考えることができるようにする。 ③社会人として、日常に使える会計知識を習得することができるようにする				
授業の方法				
使用テキスト「会計学を学ぶ」を用いて講義を行う				
学習の成果				
①決算書のひとつひとつの骨組み（フレーム）とその考え方を理解して説明することができる。 ②決算書の見方・読み方を理解して説明することができる。 ③簿記の役割と機能を学んで会計的思考を習得して説明することができる。 ④企業の業務を簿記的視点より理解して説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	シラバスの説明、簿記と会計はどのようにつながっているか			
第2回目	会計の一般原則には何があるか			
第3回目	貸借対照表の構造とその作り方（資産の種類と当座資産）			
第4回目	貸借対照表の構造とその作り方（有価証券と棚卸資産）			
第5回目	貸借対照表の構造とその作り方（有形固定資産）			
第6回目	貸借対照表の構造とその作り方（無形固定資産・繰延資産・負債の部）			

第7回目	貸借対照表の構造とその作り方（純資産の部）	
第8回目	貸借対照表の読み方、小テスト	
第9回目	損益計算書の作り方（売上高を計算する）	
第10回目	損益計算書の作り方（売上原価を計算する）	
第11回目	損益計算書の作り方（販売費及び一般管理費と儲けを計算する）	
第12回目	損益計算書の読み方	
第13回目	キャッシュフロー計算書の作り方	
第14回目	キャッシュフロー計算書の読み方	
第15回目	総括講義(本講座全体の質問に対して答える)、定期試験実施	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準(S)としては、無遅刻・無欠席で、積極的に授業に参加すること
レポート		
調査報告書		
小テスト	10%	最高水準(S)としては、90%の正解を得ること
中間・学期末試験	60%	最高水準(S)としては、90%の正解を得ること
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
「会計学を学ぶ」（税務経理協会）		
履修上の心得・ルール		
①グループワークに積極的に参加する ②分かりにくい点があれば積極的に質問する ③携帯電話の使用（送受信・その他の使用）は禁止（緊急の場合は講師に申し出ること）		